

開催日	7月19日(火)	会場	武佐小学校 体育館
時間	18:00~20:40	参加人数	42名
計画位置付け	令和8年度 小学校統合(清明小・湖畔小・武佐小の分離統合)		
質問	Q1-1 先般開催された市P連との懇談会において、教育長は、統廃合については今のところ考えていないと発言していたが、たたき台では統廃合まで含まれている。その経緯を聞きたい。教育長から地域懇談会に出席して説明してもらえないと、信頼関係がなくなるのではないか。		
回答	A1-1 統廃合ということより、小中連携を深めるにあたって小規模校になるデメリットというところを問題視をしており、6月までに再度検討を深め、小学校同士の統合というのもあり得るというところでたたき台の案として出させていただいた。昨年度は検討委員会を6回行っており、その中でも小学校同士で義務教育学校をどうするかといったところは出ていたが、3月の時点ではまだ確定しておらず、4月、5月と会議を行って案としてお示したところである。 統廃合はしないということは途中経過で教育長の発言の中であったが、真意としては単純な小中の統合再編はしないという意味合いの発言であった。たたき台の経緯としては、案を出す前の段階で、あり方検討委員会に義務教育学校における年次計画、統合再編について対象校を提案後、協議を行って最終的に提言の中に盛り込む承認というかたちを受けて、このたたき台の案を市議会に提出したという経過である。考え方としては、単純な小学校の統合再編ではなく釧路市の課題が小中連携を深めることで解決できるのではないかとすることが一番最初にあって、そのかたちを実現するために中学校区がある中で小中がどういったかたちで再編をしていくかということを考えていったのが今のたたき台である。		
質問	Q2-1 教育長は何故出席しないのか。教育長は出席する必要がないという認識なのか。トップの考えを話すべきでは。		
回答	A2-1 この度の地域懇談会は、最終的に素案を作るための意見聴取の場として、できる限り広く意見を頂戴し、再度協議をする材料作りの場と考えているため、最終的な判断、権限を持つ教育長がこの場で何かを発言するという場ではないという判断のもと開催している。教育長は10月の教育懇談会で基本計画の素案が出来上がったときの説明と意見聴取の場に出席する予定である。また、今の説明の考え方については釧路市教育委員会としてお示ししている。		
質問	Q3-1 地域の生の声を教育長がしっかり聞くことが重要。全ての地域懇談会に参加すべきだと思う。		
回答	A3-1 繰り返しとなるが、地域懇談会についてはたたき台の趣旨、考え方をご説明した上で、こういった案に対していかがでしょうかというご意見を頂戴して再度協議を行う材料作りの場として行っているため、説明の機会を避けるという意味で参加していないということではないとご理解いただきたい。丁寧に説明をして広くご意見を頂こうという趣旨のもと、進めさせていただきたい。		

質問	Q4-1 この地域懇談会は、コロナ禍の中で消毒液も設置されていない。当たり前のことかできないのにきちんと意見を教育長に伝えられるのか。学校の存廃がたった半年で決まるのか。まずは保護者懇談会を実施すべきなのではないか。スクリーンに資料を映し出すだけでは、内容が分からない。
回答	A4-1 消毒液の未設置については私どもの不手際であり、誠に申し訳ない。今後はこの様なことがない様にしたいと思う。地域を含めた保護者との懇談会として今回14箇所開催しており、7月29日に市PTA連合会との懇談会を予定しているので、そちらの方にも参加していただきたいと考えている。 今回の武佐地域の地域懇談会は確かに1回となるが、市P連との懇談会もあり、素案を作った後にパブリックコメントも教育懇談会も皆さまの意見を聞く機会だと考えて設定している。これらの機会を利用してご意見を頂ければと考えている。映している地域懇談会のスクリーン資料も今後、配布を行う様にする。
質問	Q5 この計画が12月に決まるのはあまりにも早すぎる。反対意見の出ないような計画であれば良いが、この計画はしっかりと詰めていかないといけない。また、必要性についても議論をしっかりとしないといけない。あり方検討委員会では、この内容で了解されたかも知れないが、地域にとってこの計画は本当に良いものなのか。問題の重大性から考え、慎重に議論すべき。10年間という計画だが、10年後に義務教育学校になるのか。
回答	A5 社会的に少子化が進んでおり、また、想定以上に減少が進んでいく可能性もある中、釧路市内の学校では2、3年後に複式学級の対象となる学校が出てくるという状況もあって、今回の年次計画をたたき台として示させていただいていた。計画を急いで策定をしなればいけないという部分もあったが、年次計画はまだまだ確定的なものではないのでこれから皆さまのご意見を頂いた上で議論をして定めていく。 10年間の計画では出来るところから義務教育学校の設置、通学区域の変更を行っていくが、青陵中学校校区はこの10年間で義務教育学校の設置は難しいので、また10年後に次の計画として検討委員会を開いて検討する。
質問	Q1-2 3年前から青陵中を中心として3小学校が連携した取組を行っている。少人数のデメリットばかりを説明するが、武佐小は学力が上がっており、デメリットだけではなく、良い部分もたくさんある。転校することが分かっているなら、今在校している子も武佐にいたくなるのではないかと。清明、湖畔との統合により、それらの学校も校名変更等の影響がある。今、統廃合する必要は全くないと思う。
回答	A1-2 地域の貴重なご意見として参考とさせていただきます。
質問	Q6 この計画に憤りを感じている。新聞にこの計画が突如現れて、議会で議論されたと思うが、教育の根本を変えるような話しをこんな短期間に進めて良いのか。義務教育学校と学校の廃止は別問題。それを十把一絡げに取り扱うのは乱暴であるし、地域に学校があることは、地域を成り立たせるために重要。この問題は、教育長、市長が出てきて説明するのが当たり前では。釧路の教育ということを考えたとき、いかがなものかと強く感じる。あり方検討委員会の議事録は公表されているのか。
回答	A6 内容について公表しているが、あり方検討委員会の途中では非公開の回もあり、その回については公表していない。

質問	Q4-2 すでに計画が出ている中、あり方検討委員会の議事録は公表しないのか。
回答	A4-2 地域懇談会の資料も含めてあり方検討委員会の議事録についても掲載をする。
質問	Q2-2 義務教育学校のメリットの説明内容が、文科省の資料と全く同じだが、市教委としてしっかり議論されてきたのか。あり方検討委員会では、義務教育学校に反対した人はいなかったのか。また、賛成は何人いたのか。
回答	A2-2 文科省の資料を用いているところもあるが、あり方検討委員会では義務教育学校について釧路市が取り入れて良いかということも含めて議論を行ってきた。委員は14名で構成されており、挙手などで賛成を取ってはいないが、大きな方針として義務教育学校の設置をしていくということに対して反対の委員はおらず、反対意見についてもなかった。
質問	Q7 地域懇談会の開催が14か所では少ない。平日の18時は家庭では最も忙しい時間であり、時間設定に疑問。この後実施される教育懇談会も6か所では少ない。もっと地域の声を聞くべき。中1ギャップの解消等の点で、今行われている小中連携では足りないということか。検討委員会には現場の教師が入っているのか。もし、入っていないのであれば、子ども達が置き去りにされていると感じる。小中連携が効果的なのであれば、武佐小を残して、小中連携のモデルとしたら良いのではないか。検討委員会の市民公募の選考基準を教えてください。
回答	A7 日中の時間帯だと時間を割くのが中々難しいと考えて、仕事が終わった後の時間帯に設定をした。あり方検討委員会の教員については、小中学校校長会の先生、教頭会の代表、高等学校の校長会の先生、幼稚園の連合会の先生、学識経験者というところで大学の先生が入っている。公募については、3名以内で募集を行い、10名応募があった中でご提出いただいた意見を参考に選出した。 青陵中学校は釧路市の中でも先行的に3年前から小中連携を行っており、その取り組みを参考に今年度から全ての小中学校で小・中ジョイントプロジェクトという取り組みを行っており、小中連携を進めていく上で大変効果的である。武佐小学校は小中連携が上手くいっているが、将来的に複式学級になるのではないかと懸念がある。釧路管内ではどうしても複式学級になる学校はあるが、釧路市内は距離が近い学校があって、複式学級を避けることが可能なので、武佐小学校が複式学級になっても良いかどうかということも含めて地域の方、保護者の方からご意見をいただきたい。

質問	<p>Q8 義務教育学校の良さは理解したが、転校する児童のケアはどのように考えているのか。スクールバスを出すお金があるのであれば、武佐小を無くすのではなく、武佐の人口を増やすことを考えては。大阪から移住してきたが、武佐は素晴らしい。中学生であればスクールバスも可能だと思うが、小学1年生が遠くに通うデメリットに思いを寄せる意見は出なかったのか。子ども的人数が少ないことはデメリットなのか。その中で工夫していくことは出来るし、中学に行けば人数が増える。中1ギャップもあるかもしれないが、それよりも小学校のうちから人数が少ない学校を排除する必要があるのか。武佐地区が衰退することなく続いていく方策を考えてもらえると、我々は安心して暮らすことができる。</p>
回答	<p>A8 学校を再編してしまうと通学路が遠くなってしまいますので、通学路の安全というのは検討委員会、教育委員会内部も1つの大きなポイントとして話しをしてきており、地域の学校というお声も確かにあるということも議論の中でも出ていたが、それよりも今後人数が減って、複式学級になってしまったときのデメリットの方が上回ってしまうのではないかというところで今回たたき台の案を出させていただいた。</p> <p>デメリットを強く心配をして釧路市としてこの提案を出させていただいたが、一方で小規模校は小規模校のメリットがあり、地域として武佐小学校が大事だという皆さまのご意見はしっかりと受け止めたので、一旦、ご意見を持ち帰って年次計画、中学校区の再編も含めて、あり方検討委員会で再度議論させていただく。地域の衰退については年次計画のタイミングもあり、教育部局として都市計画までどうこうすることは出来ないが、学校のあり方としてしっかりと検討委員会にお伝えをしたい。</p>
質問	<p>Q9-1 私の中では理解できる説明は無く、納得ができない。今日出された意見を踏まえた検討案を改めて説明してもらえないか。12月に決定するのは早すぎる。これは決定事項なのか。</p>
回答	<p>A9-1 今回はたたき台としてのご提案なので、ご意見を頂戴した上で、今度は素案というかたちでご説明、ご意見を頂戴する機会を市内6箇所で開催したいと考えている。先程、時間設定に問題があるというお話しもあったので、その点も踏まえて今度はもう少し規模の大きい施設で開催したいと思う。方針としては決定を12月としているが、ご意見を色々頂戴したので、頂いたご意見を踏まえた中で今後検討していきたいと思う。</p>
質問	<p>Q9-2 教育委員会は休みだとは思いますが、土日を含めた懇談会を開いて欲しい。学校に通っている保護者は新聞でこのことを知り、情報が少ないので教育委員会からだけではなく学校の先生に周知徹底をして学校から保護者にお知らせをしてほしい。また、この件の問い合わせ先はどこになるのか。</p>
回答	<p>A9-2 地域懇談会の開催の案内については、学校に保護者の方へお知らせを依頼をしているところではあったが、届いていなかったのであれば、誠に申し訳ない。次の懇談会では間違いなくお知らせするようにしたいと思う。今回の計画については教育委員会で決定していくものだと考えており、計画の内容について学校というより、教育委員会から説明をしたいと考えている。今後の懇談会の開催は土日も検討して参りたいと思う。問い合わせ先は釧路市教育委員会教育支援課、森宛にメール、お電話でお問い合わせを頂ければと思う。</p>

質問	Q10-1 複式学級では、子ども1人あたりに関わる時間が減るとの説明であったが、大規模校でも1人あたりの時間は限られる。複式を経験した先生からは、複式の方が子どもに関わる時間が長いと聞いており、少しミスリードの様な印象を受ける。学校選択制について、統合までの間に検討してほしい。武佐は近くに駅があり、武佐の森もあり、人数が少ないというところで課外学習も大変手厚く活動している学校で、上の子が愛国小に通っていたが、愛国小と比べても、ここにしかない特色のある学校ではないかと思う。清明小、湖畔小を武佐小に統合するという案は無かったのか。学校の特色を活かすのが今回の計画の前提かと思うが、清明小、湖畔小、武佐小のそれぞれの特色をどのように考えているのか。統合の検討にあたって、それぞれの学校の特色をどのように活かしていくのかといった議論が無かったのは残念に思う。
回答	A10-1 複式学級の場合は、2つの学年を1つの教室、1人の先生で教えることとなり、それぞれの学年のための黒板がある。授業について、例えば3年生の授業中は4年生が自習で課題を行って、4年生の授業中は3年生が自習で課題を行うことになる。湖畔小や武佐小も子どもの数が減少しており、複数の学級を求めている保護者の方もいる中、清明小、湖畔小を武佐小に統合するのは難しいと考えていた。学校の特色については今後検討していきたいと思う。学校選択制についてはまだ検討中で、お示しできる段階ではないので、今後も検討して参りたいと思う。
質問	Q10-2 地域の話になるが、こうした計画が出ると、これから入学する子がいる家庭では、武佐への引っ越しを考えてしまい、より少なくなってしまうので、影響の大きい公表であったが、今回の資料はそういった部分も加味した児童推計の数字になるのか。
回答	A10-2 武佐小校区にお住まいの0歳児から12歳で入学率の定数をかけて普通学級の推計値を出しているの、そういった部分が入っていない。また、普通学級はそのようなかたちで算出しているが、特別支援学級は定数でかけるということが困難なため考慮した数字ではない。
質問	Q11 ここ4～5年で5戸の若い家族がうちの町内会に転居してきた。10数年、若い人が住んでいなかったので喜んでた矢先の今回の案であり、全く納得できない。少しでも武佐の活性化に繋がればとの思いで、これまで学校と一緒にラジオ体操や本の読み聞かせ等に関わってきて、地域町内会もとても積極的である。武佐小の耐震化工事で安心していたのに、なぜ統廃合なのか。資料の中では、武佐小を廃止しなければならない具体的な理由が何も書かれておらず、複式学級でも良いという声も先ほどあったし、武佐小では良い教育が行われている。地域の意見は聞くだけ聞いたけど、計画はこのまま進めますというやり方だけは絶対に止めて欲しい。
回答	A11 武佐小学校では良い教育が行われており、地域との関わりも良い関係にあるということは伝わっている。繰り返しとなってしまい申し訳ないが、児童の人数が減っている中、子どもたちの環境を心配してこのご提案を差し上げている。例えば学芸会の出し物が限られてしまうことや、体育教科の中でも出来るスポーツが限られたりなど色々なことで制約が出てくるが、一方でその制約を踏まえても今の武佐小学校では良い教育がされているということをご意見として受け止めたので、あり方検討委員会にご意見を報告をして、議論していきたいと思う。

質問	<p>Q1-3 武佐小の先生達は児童が少ないながらも運動会や学芸会等の行事を考えてやってくれているので、そういった部分は地域としても保護者も心配はしていない。保護者だけではなく先生も含めてのPTAであるし、義務教育学校化によって全体として100人以上の先生がいなくなるのは何とかしたいという思いがある。児童館も学校の近くにあるからこそ利用するので、児童館も残しつつ、武佐小の存続を考えてほしい。</p>
回答	<p>A1-3 頂いたご意見については今後検討に挙げていきたい。</p>
質問	<p>Q12 現在、武佐小学校で学ばせて頂いている保護者だが、統廃合や義務教育学校ときれいな言葉を並べても学校を潰すということは親や地域にとって重大なことであり、同じことを子ども達にも説明できるのか。子どもは人数が少ないことを可哀想なことだとは思っていない。諸外国では、学校規模が小さい方が教育効果は高いとされているが、これと逆行しており、憤りを覚える。小中一貫教育について、中1ギャップは人数が多くて教育が行き届かないところで子どもたちがついていけなくなり起こることであって、武佐小には当てはまらず、武佐小を潰す理由にはならない。武佐小は学力は全国平均を上回っているのにこういった提案をすることは保護者に対して失礼であるし、武佐小に特化した内容で説明を行うべき。私から提案したいが、武佐小については少人数を貫き、きめ細やかな教育を受けられる学校とし、釧路市は、そういった学校を選択できるような環境を作ることを目指すべきではないか。子どもの教育は甘くないし、親は腹をくくって子どもを学校に送っている。私は怒っている。</p>
回答	<p>A12 ご意見についてわかるが、実は全道的には子どもの人数が減って複式学級になってくると、その地域では学校の存続を望むが、保護者の方は大きい学校に子ども達を転校させるといった動きも出てくる。小さい学校のメリットもわかるが、日本の教育システムでは人数が少なくなると複式学級になってしまうということもあり、武佐小学校の将来のあり方として何が良いのかということを考えて頂きたい。</p> <p>地域の方、保護者の方のご意見を頂戴した中で現状の武佐小学校の教育がとても良い状態であり、継続して欲しいというお気持ちは伝わっているので、その点について再検討したいと思う。</p>
質問	<p>Q3-2 都市計画とも連動した話しであると思うが、武佐の良さをもっと宣伝して、例えば武佐地区にある公住をきれいに改修する等、少子化対策を行っていかねば人口は減る一方で、これは釧路市の問題である。武佐小の校舎は10億円をかけて耐震改修しているのに、活用しないで人口が減ったから統廃合をするということは市民の税金が投入されているのに問題ではないか。少人数はデメリットばかりが出されているが、メリットはないのか。少人数がダメだと言うなら、離島等ではだめな教育が行われているのか。</p>
回答	<p>A3-2 仰る通り少人数のメリットというものもあるが、デメリットの方が上回るのではないかとこのところ、こういった取り組みはどうかというご提案を差し上げたが、一方で、武佐小学校には今は新たな改革の必要は無くて、現状のままで十分な教育が受けられるというご意見については再検討したいと思う。</p>

質問	Q13 学校から帰って来た子どもから、「私は清明小に行けるの？」と聞かれたが、住んでいる地域が湖畔小区域のため、歩いて通える距離では無いと伝えた。スクールバスがあったとしても、遠くから通うことになる学校と学校の近隣に住む友達とは遊べないのが可哀想で、湖畔小に行くことになる当事者としては「転校」に値するため、子どものケアをきちんとしてもらえるか不安がある。
回答	A13 頂いたご意見について今後検討していきたいと思う。
質問	Q14-1 子どもが1年生、3年生、5年生が武佐小学校に通っているPTA役員だが、まずこの計画には反対であり、検討委員会では反対意見が無かったとのことだが、ここで出た意見が意味をなさないものにならないよう、しっかりと検討してほしい。我々にとって今回の件は、いきなり新聞報道で見て、ただただ混乱を与えられたという印象であり、そういった影響を与えていることがわかっていないように感じる。校区が変わったときに実際通える距離なのか、清明小、湖畔小に統合した後にどのようなメリット、デメリットがあるのかということもシミュレーションして示してもらわなければ判断できないし、小人数のデメリットだけを示すのではなく、武佐小がなくなることについて、納得のいく案を出してほしい。今回出された意見は必ず吸い上げてほしい。
回答	A14-1 6月10日に決定後、市議会に報告をして、すぐに地域へご説明に伺っているつもりだったが、あり方検討委員会の情報の出し方、地域懇談会の情報の出し方等、情報の出し方について、色々不備があり突然であったと思う。今後は、丁寧に地域にご説明をする前段に情報提供をしながら、お話をしていきたいと思う。また、計画そのものに対して反対だというご意見についても、了解したので今後の議論に反映をしていながら出来るだけ皆さまにしっかりと情報をお知らせ出来る様な環境を整えたいと思う。
質問	Q4-2 自分が通っていた学校が廃校になるという喪失感はとても大きい。複式学級のデメリットばかりを言っているが、複式学級はメリットしかないと聞いている。武佐小はコミュニティ・スクールもあって、地域と連携して教育に取り組んでおり、これだけ良い学校を無くすのか。人が少ないからこそその学校づくりという考え方や、武佐小の良いところを活かそうと何故しないのか。釧路市教育委員会の言っているデメリットは武佐小にはあてはまらず、今回の計画が新聞に出たことにより、今から武佐小を避けて、湖畔小や清明小に通わせようという親が出てくると思うが、武佐小学校の人数を少なくしようとしているのではないのか。そうした最悪のことを想定して情報を出すべきであり、そうなった場合の責任をどう取るのか。この計画は学校には関係ないのに地域懇談会の日程については学校を通して出てくるのか。
回答	A4-2 この計画は、釧路市教育委員会に責任があって、統合・再編の問い合わせについて学校では対応はできないので、問い合わせの際は市教委へ回して欲しいということを学校に伝えている。懇談会の日程の周知については、今後、案内の方法で学校から保護者の方にメール等でお知らせした方が良いのではないかなという内容のご意見だと思うので、今後は学校の協力も得ながら周知に務めて参りたい。

質問	Q1-4 私は最初から地域懇談会に参加しているが、どこの会場も今回の計画について反対だった。こうした反対意見を基本計画に踏まえなければいけません、私達が自民党の市議会へ動くしかない。そこまで考えて案を出さなければいけないし、何故、自民党は今の段階からこの計画に賛成しているのかがおかしいと思う。市教委は市議会議員は、市民の代表だと言っているが、子どもたちを釧路で育てやすい環境を作ると言って当選しているのに、話しが違うのではないか。
回答	A1-4 地域懇談会で地域を回って説明している中で、今回の計画のたたき台の内容を変更することはできないので、説明についてはずっと同じ内容となるが、今後この計画について変更しないということでは無いので、皆さまのご意見の意図しているところは十分に理解をしたので、今後再検討というかたちで計画の内容の変更も含めて検討して参りたいと思う。
質問	Q6-2 話が変わるかもしれないが支所の廃止の件も反対意見が圧倒的だが、市は計画を見直すとは決して言わない。あり方検討委員会も非常に分かりにくいし不明瞭で、個々の意見を上げて聞き置くだけということで終わるのであれば、14箇所の地域懇談会はアライバイ作りにしか感じられない。今回の12月までの計画について、地域、保護者の意見を踏まえては変更することがあるのかはっきりと答えていただきたい。
回答	A6-2 タイムスケジュールも含めてこれまでの議論の中で決めてきたこともあるので、一存で12月に計画を決めることをやめますとはこの場で申し上げることは出来ないが、皆さまのご意見は次回のあり方検討委員会ですっきりと議論をして、今後に繋げていきたいと考えている。
質問	Q2-3 計画を変更する可能性はあるのか。
回答	A2-3 何もないところでは議論が出来ないため、議論のベースのたたき台としてこの案を提案したが、今回のご意見を受けてたたき台から内容を変更するという可能性はある。
質問	Q2-4 小中一貫教育の9年間で子どもを見るという考え方については賛成だが、この方法が統廃合を含めた義務教育学校化となることは反対である。小中一貫型の学校もある中、義務教育学校というかたちを進める理由を説明してほしい。
回答	A2-4 今回、方針として釧路市は施設一体型の義務教育学校をあげているが、1つの学校に1人の校長先生が教員と意思疎通できるというところと、同じ施設で1年生から9年生まで小学校と中学校の先生が一緒になって子どもたちを見守ることが出来るというところから方針としてあげさせてもらった。併設方の小中一貫型の学校だと校長先生がそれぞれ2人いて、学校も離れているので、施設一体型の義務教育学校ほど効果的なものが受けられないとして最終的な目標として方針を出した。
質問	Q2-5 武佐小は、小中連携がうまくいっている例として説明していたが、それを無くして統合しても良いのか。今回示された10年間の中では、青陵中の義務教育学校化は盛り込まれていないが、今後、検討されるということで良いか。
回答	A2-5 武佐小学校の場合は統合、再編をして将来的に義務教育学校にしていきたいというたたき台の案だったが、今回ご意見をいただいて、今後再検討していきたい。今回の計画の10年の中には、青陵中の義務教育学校化は考えていないが、将来的には義務教育学校について考えていきたいと思う。

質問	Q14-2 他都市で義務教育学校を導入しているところはあるのか。また、中1ギャップに関する検証が行われているのであれば、不登校が無くなった等の資料を欲しい。
回答	A14-2 中1ギャップが無くなったという数値は文科省の統計などでは出ていないが、義務教育学校が平成28年に出来てからどういった学校かということは、本州にも視察に行っており、北海道内の義務教育学校の状況についてもネットワークで繋がってるので、事例検証を行っている。その中で、実際の意見として効果が出ていると聞いており、その効果を期待して釧路市の課題を緩和していきたいと考えている。
質問	Q14-3 今の話や計画の中で、「期待される」「見込まれる」と言っているが、ぼんやりとした中で進めていくことに疑問を感じており、10年の計画の中で仮に義務教育学校がだめだということになればもとに戻す考えはあるのか。
回答	A14-3 義務教育学校を設置するとこの様な効果がありますといった効果を断言できるものではないので、その様な表現となってしまう、心苦しいところだが、釧路市の課題が少しでも緩和できるのであればおこなっていききたいと考えている。また、現時点で計画を進めた後、再度戻すということは考えていない。
質問	Q15 調べたところ、義務教育学校を先駆的に取り入れている自治体としては、広島県呉市、茨城県つくば市、品川区があるが、品川区では20年が経過して、結局学校が大きくなって子どもへの目が行き届かなくなり、義務教育学校を変更しようかという話しが出ている。呉市でも課題が生じ、つくば市でも弊害から元の学校に戻そうかという話しが出ており、結果として小学校、中学校の方が良いのではないのか。
回答	A15 実際に行っている訳ではないが、広島県呉市は実際に視察に行った方の意見を聞いており、凄く良い効果が上がっているという話は聞いている。
質問	Q4-3 何故、今の意見が出されたような義務教育学校のデメリットを話さないのか。メリットだけ話すのは何か隠したいことでもあるのか。メリットもデメリットもある中、小規模校のデメリットばかりを話して義務教育学校のメリットしか話さないのは、やり方が狭くて汚い。この1回の懇談会で終わらせようとしてた考えが甘い。武佐小学校のメリットを延ばす方向で考えて行けば良い。
回答	A4-3 義務教育学校のメリットばかりを申し上げてしまっているのは申し訳ない。デメリットとしては、児童生徒を9年間で見るので、小学校6年生の最上級生としてのリーダ制が無くなってしまふところと言われてる。このデメリットについては、ステージ制を取って、様々な学年でリーダシップを発揮できるようにして克服していきたいと考えている。
質問	Q2-6 この地域懇談会は録音をしているのか。議事録は公表するのか。今後の地域懇談会でも、資料は2枚のみで行うのか。
回答	A2-6 録音について様々な意見を聴取するため行っていないが、次回以降検討する。また、資料についても概要版の2枚の配布ではなく、スクリーンと同じものを配布するようにする。各地域のご意見とその市教委の回答については、全ての懇談会が終わった後にホームページに掲載する予定である。